

KOBELCO

第165期
上半期

株主の皆様へ

平成29年4月1日～平成29年9月30日

証券コード 5406

<お知らせ>

「株主様見学会参加者募集のご案内」を6ページに掲載しております。

このたびは、株主の皆様をはじめ、多くの皆様方に多大なるご迷惑とご心配をおかけしておりますこと、衷心より深くお詫び申し上げます。誠に申し訳ございません。徹底的な原因究明、再発防止策の確実な実施により、一刻も早い信頼の回復に向け、グループを挙げて全力で取り組んでまいりますので、引き続きご支援を賜われますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

当社グループは、日頃より、「社会から信頼される会社」であるべく努めてまいりましたが、今般、当社および当社グループの複数の会社において品質コンプライアンスに係る不適切な行為を行っていた事実が判明しました。株主の皆様をはじめ、当社製品をご使用いただいているお客様、さらにはお客様が当社製品を用いて製造された最終製品をお使いまたはご利用いただいている多くの消費者の皆様に、多大なるご迷惑とご心配をおかけしておりますこと、誠に申し訳なく、深くお詫び申し上げます。

当社グループでは、昨年春に判明した当社関連会社の子会社が日本工業規格 (JIS) を逸脱したばね用鋼線製品を出荷していた事案を受け、グループを挙げて、JIS法を含む品質に関する法令遵守状況、加えてお客様と取り決めた製品仕様の遵守状況の自主点検を行なってまいりましたところ、当社アルミ・銅事業部門を中心に複数のグループ会社において、JIS法違反の事実や、一部の製品につきお客様と取り決めた製品仕様を逸脱しているにもかかわらず、検査証明

書のデータを書き換えたり、必要な試験の一部を省略して出荷したりという不適切な行為が行なわれていた事実が判明いたしました。

当社グループは、これらの問題の判明後、直ちに不適切な行為が行なわれた製品の出荷を停止し、自主点検および緊急監査を実施するとともに、社内に「品質問題調査委員会」を立ち上げ、全容把握・原因究明・再発防止策の検討を進めてまいりました。その調査結果等を踏まえ、11月10日に「当社グループにおける不適切行為に係る原因究明と再発防止策に関する報告書」を経済産業省に提出し、その内容を公表しました。

一方、当社製品のお客様におかれましては、当社製品および当社製品を用いて製造された最終製品の安全性の確認作業を進めていただいております。現時点では、約9割のお客様より安全性が確認出来た旨のご報告をいただいております。

また、10月26日には、社外の弁護士のみで構成される外部調査委員会を設置し、これまで当社が進めてまいりました

自主点検・緊急監査の適正性・妥当性の検証、本事案の原因究明、および再発防止に向けた提言の作成を、年内を目処に進めていただいております。先に公表した報告書の内容につき第三者の視点からご評価をいただくこととしております。

当社グループといたしましては、二度とこのような事案を起こすことなく、当社グループとして再び信頼が得られるよう、ひいては当社グループの製品を皆様に安心してお使いまたはご利用していただけるよう、外部調査委員会のご提言を真摯に受け止め、役員、従業員が一体となって再発防止策の徹底に努めてまいります所存です。

当上半期の業績、当期の業績見通しおよび中間配当の見送りについて

さて、当社グループの上半期の連結業績は、後述の「業績のご報告」でご説明しておりますとおり、自動車向けの需要が堅調だったこと、品質管理の適正化に伴う不良率の増加によるコストアップや減産影響に加えて不適切な行為に係る一部の製品在庫の処分などの影響は生じたものの、上半期業績への影響は些少であったことなどから、売上高は前年同期に比べ919億円増収の9,070億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期に比べ352億円増益の393億円となりました。

一方、当期の業績見通しにつきましては、今般の事案に関連するアルミ・銅関連事業において品質管理の適正化に伴う不良率の悪化によるコストアップや生産量減少、および不適切な行為に係る製品の在庫処分による業績悪化の影響、加えて今後当社グループの販売活動に与えるであろうリスクについて一定の想定をしました結果、本年7月末に公表いたしました見通しに比べ、経常利益については50億円減益

の500億円、また親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、お客様への補償費用等の業績悪化要因についての影響を現時点で見通すことが困難なことから、未定と変更いたしました。

これを受け、中間配当に関しては、本年7月末に1株につき10円をお支払いする予定である旨を公表しておりましたが、見送ることとさせていただきます。日頃よりご支援をいただいております株主様のご期待に沿うことができず、誠に申し訳なく、重ねて深くお詫び申し上げます。

今後の取組みについて

10月8日に今般の不適切な行為を公表して以降、株主様、当社製品のお客様、最終製品をご使用・ご利用になられている消費者の皆様から、大変に厳しい叱責のお言葉を多数頂戴しております。

皆様から頂戴したご意見を踏まえながら、事業運営の根幹は「安全」と「信頼」であるとの基本に立ち返り、当社グループの役員、従業員一人ひとりが、二度とこのような事態を起こさぬよう自らを厳格に律することを肝に銘じつつ、再発防止策を徹底し、優れた品質管理体制を構築することで、皆様からの信頼を再び頂戴できるよう、また株主の皆様が安心して当社の株式をお持ちいただけるよう、全力で取り組んでまいりますので、引き続きご支援、ご指導を賜われますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

平成29年12月

株式会社神戸製鋼所
代表取締役会長兼社長

川崎博也

<当社グループにおける不適切行為に係る再発防止策について>

今回の不適切な行為の概要および安全性の検証の進捗状況などにつきましては、当社ホームページや東京証券取引所ホームページにて公表しておりますが、11月10日に公表いたしました再発防止策について、以下のとおり概略をご報告いたします。

※詳しくは当社ホームページをご覧ください。

http://www.kobelco.co.jp/information/1197827_13254.html

【再発防止策の概要】

1. 経営としての姿勢・取組み

- 信頼を回復し高めていく経営の推進（「品質はコストや納期に優先する」という価値観を「品質憲章」として定め、全社員で共有し、信頼回復に向け全力で取り組む）
- 目標、指標の考え方の見直し（持続的成長のため、財務指標だけでなく、

品質、顧客満足度、技術開発などの視点を加えた目標や指標の設定)

- 言いたいことが言い合える活気ある職場風土づくり（困りごとを放置しない風土の構築）

2. バランスを欠いた工場運営への対策

- 納期優先、生産優先の操業、閉鎖的な組織体制といったバランスを欠いた組織運営の改善（グループ会社を含めた品質ガバナンス強化策、組織改革、意識改革、外部人材の活用、海外の統括会社機能強化等を検討）
- 受注検討時に、顧客の要求仕様に対し、工程能力の把握・具体的な試験検査方法の確認および十分な試作評価を行ない、受注の可否を組織的に審議する業務フローの見直しの実施
- 事業部門・事業所間を横断した品質保証人材のローテーションと外部人材を活用した品質保証人材の育成計画の具体化の実施

3. 不適切行為を招く不十分な品質管理手続きに対する対策

不適切な行為のあった各事業所において、以下の対策を実施してまいります。なお、問題のなかった事業所に対しても、業務の仕組みやシステムの不備

と同様の問題がないか点検のうえ、必要な事業所に対しては対策を講じてまいります。

- 試験検査データの記録に関する自動化の推進
- 試験検査データの自動取込みができない場合における複数名で0次データをチェックする仕組みの構築
- 社内規格から顧客規格による出荷判定への一本化
- 不足している工程能力の向上策の実施

4. 契約に定められた仕様の遵守に対する意識の低下への対策

- 過去の事例の教育への活用（当社の過去の品質コンプライアンス事案の再発防止を狙いとした当社グループ内の教育プログラムの整備、当社グループ全体への周知のための品質関係者会議の設置、日本鉄鋼連盟の「品質保証体制強化に向けたガイドライン」に沿った教育の実施）
- 職場単位での本音で意見が言い合える場や、工場トップと職場の階層別の対話の場の設置による、風通しの良い職場づくりの推進


5. 不十分な組織体制に対する対策

- 事業部門における品質管理チェック機能の強化（品質管理機能と品質保証機能の分離、品質保証部門の製造部署からの独立性確保、事業部門およびグループ会社の品質管理・品質保証に関わる監査機能および教育・研修機能を有した独立部門の設置など）
- 本社における品質管理チェック機能強化（本社に品質監査の専門部署として、各事業部門の品質監査状況チェック機能、各事業部門およびグループ会社に対する品質監査機能、各工場の工程能力状況の把握を担う「品質監査部（仮称）」設置）

なお、以上の当社がまとめた再発防止策に加え、外部調査委員会が、今回の不適切行為の直接的な原因に加え、企業風土、コンプライアンスおよび組織運営体制といった背景となる要因の究明ならびに再発防止のための改善策の提案を行なう予定です。

鉄鋼事業部門

3,544億円 (前年同期比 +22.1%)




- 鋼材販売数量：輸出は減少するも、国内の自動車向け需要の堅調な推移などにより、前年同期比増
- 鋼材販売価格：主原料価格の上昇などの影響を受け、前年同期を上回る
- 鍛造鋼品売上高：船舶向け需要の減少により、前年同期比減
- チタン製品売上高：航空機向け販売の増加により、前年同期比増
- 経常損益：前年同期比282億円改善の184億円の利益

組立型クランクシャフト

溶接事業部門

397億円 (前年同期比 △6.0%)




- 溶接材料：国内の建築鉄骨やエネルギー向け需要が回復傾向にある一方、韓国向けの大幅な減少により、前年同期比減
- 溶接システム売上高：建築鉄骨向け需要が堅調に推移するも、高水準であった前年同期比減
- 経常利益：前年同期比12億円減益の25億円

各種溶接材料

アルミ・銅事業部門

1,743億円 (前年同期比 +7.0%)




- アルミ圧延品：飲料用缶材向け需要が前年同期並も、自動車向け需要の増加により、前年同期比増
- 銅圧延品販売数量：前年同期並 [銅管] タイの生産拠点での設備トラブルによる販売数量減 [銅板条] 自動車用端子や半導体向け需要増
- 経常利益：前年同期比14億円増益の79億円

アルミボトル缶材

機械事業部門

705億円 (前年同期比 △2.0%)



- 受注高：中国の石油化学分野などの市場が回復基調にあったことから、前年同期比20.2%増の671億円
- 当期末受注残高：1,353億円
- 経常損益：圧縮機の一部案件の採算性悪化により、前年同期比42億円悪化の4億円の損失

スクリュ式非汎用圧縮機

当期の概況

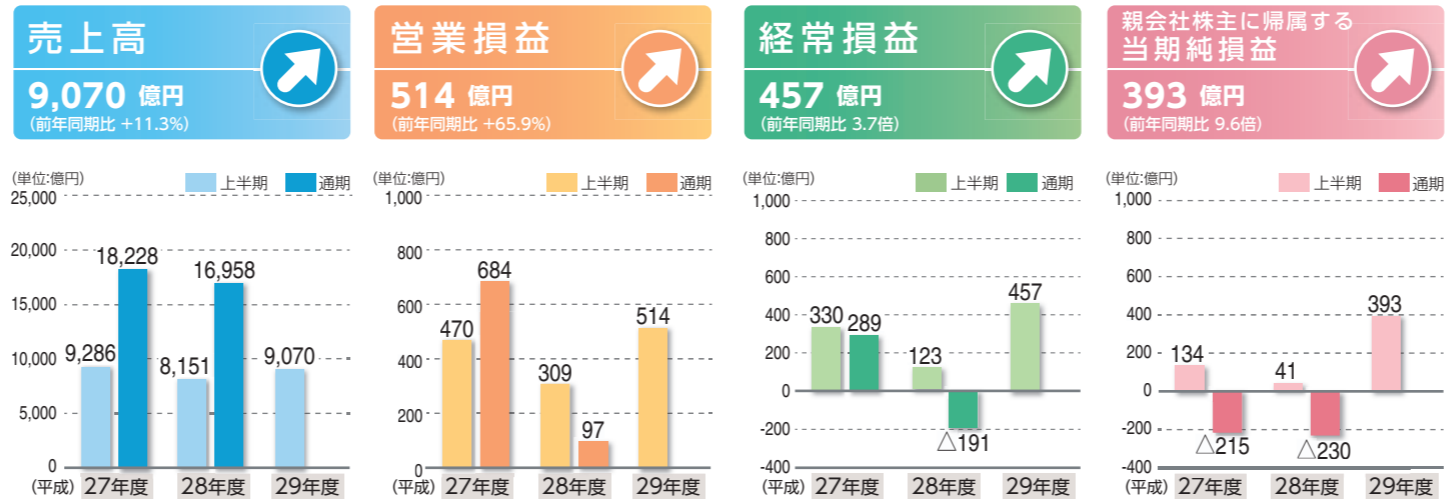
当社グループにおいては、鋼材の販売数量は、自動車向けの需要が堅調に推移したことなどから前年同期を上回りました。アルミ圧延品の販売数量は、飲料用缶材向けの需要が前年同期並であったものの、自動車向けの需要が増加したことにより、前年同期を上回りました。銅圧延品の販売数量は、銅管において設備トラブルにより販売数量が減少したものの、銅板条において自動車用端子や半導体向けの需要が増加したことから、前年同期並となりました。油圧ショベルの販売台数は、国内及び中国などで需要が増加したことから、前年同期を上回りました。

この結果、当上半期の売上高は前年同期比919億円増収の9,070億円となり、営業利益は前年同期比204億円増益の514億円、経常利益は前年同期比

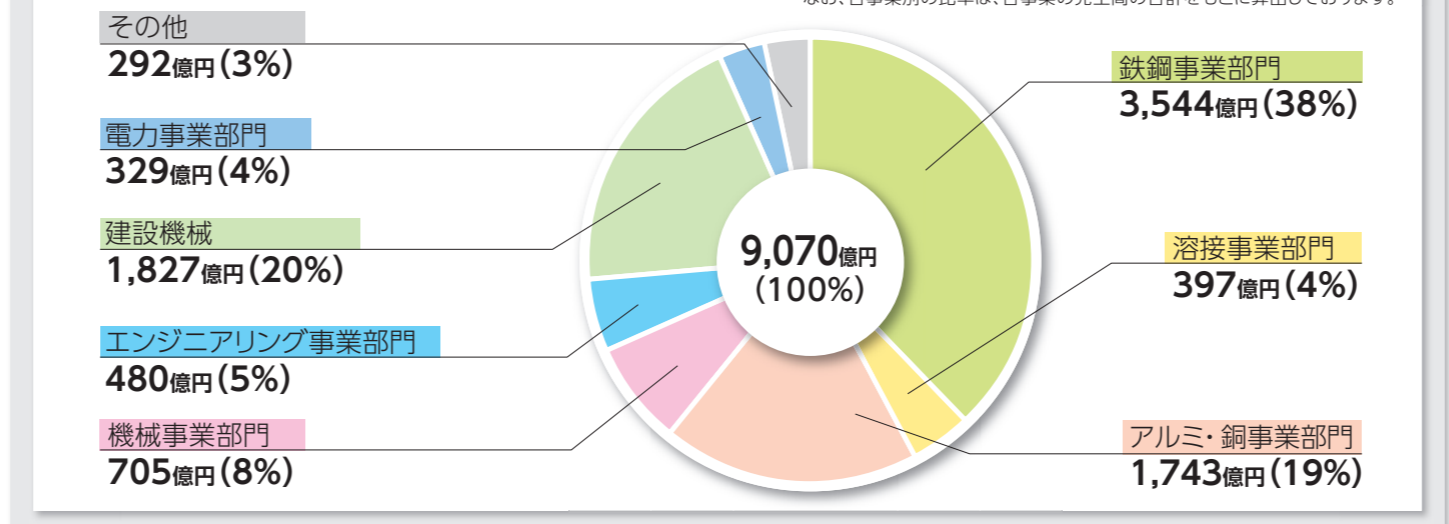
△334億円増益の457億円となりました。特別損益は、投資有価証券売却益を計上したことから90億円の利益となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比352億円増益の393億円となりました。

なお、このたび、当社および当社グループの複数の会社における、製品に対する不適切な行為に関しまして、株主様、お客様、お取引先様そのほか多数の皆様にご迷惑をおかけしておりますこと、改めて深くお詫び申し上げます。当該不適切行為に関し、アルミ・銅事業部門において、品質管理の適正化に伴う不良率の増加によるコストアップや減産影響に加え、一部不適合品在庫の処分などの影響は生じたものの、当上半期の業績への金額影響は僅少です。

業績ハイライト (連結)




■事業別売上高 (平成29年度 上半期)



エンジニアリング事業部門

480億円 (前年同期比 △3.2%)



- 受注高：還元鉄プラントで大型受注があった前年同期に比べ減少し、前年同期比30.7%減の559億円
- 当期末受注残高：1,909億円
- 経常利益：進行中の一部案件での採算性の改善などにより、前年同期比17億円増益の17億円

MIDREX®プラント(ロシア)

建設機械

1,827億円 (前年同期比 +17.0%)




- 油圧ショベル販売台数：前年同期比増 [国内] 排ガス規制前の駆込みで需要増 [海外] 中国でのインフラ投資により需要増
- クローラークレーン販売台数：前年同期比減 [国内] 比較的高水準で推移するも一部案件での工事遅延などにより減 [海外] 東南アジアを中心に需要減
- 経常損益：油圧ショベルの販売台数の増加や中国での油圧ショベル事業の滞留債権に関する貸倒引当金の計上影響がなくなったことなどにより、前年同期比120億円改善の114億円の利益

20トン級油圧ショベル

テレスコピッククローラークレーン

電力事業部門

329億円 (前年同期比 △7.2%)



- 販売電力量：定期修理日数の違いにより、前年同期比減
- 電力単価：燃料の石炭価格の市況上昇の影響を受け、前年同期を上回る
- 経常利益：神戸発電所1号機の新契約移行の影響や定期検査時の保全費の増加などにより、前年同期比49億円減益の33億円

建設中の真岡発電所

その他

292億円 (前年同期比 △6.6%)



- 神鋼不動産：[分譲事業] 堅調に推移 [賃貸事業] 堅調に推移
- コベルコ科研：[試験研究事業] 自動車向け受注減
- その他：連結子会社であった神鋼ケアライフ株式会社を、持分法適用関連会社に変更
- その他の事業全体の経常利益：前年同期比2億円減益の17億円

ゾークレフ西宮北口

(注) 表示金額は、単位未満の数字を切り捨てております。各事業名の下に数字は売上高を記載しております。

2017.4～2017.9 (平成29年4月～平成29年9月) ● 鉄鋼事業部門 ● 機械事業部門

2017年
4月

機械事業部門

スウェーデン Quintus社の買収について

当社は、等方圧加圧装置（略称：IP装置）の世界トップメーカーであるスウェーデンのQuintus Technologies AB（以下、Quintus社）を約130億円で買収しました。

IP装置は、金属やセラミック、カーボンなどの素材を高圧・高温（または常温）環境下で圧力を均等にかけて加圧焼結または成形する装置であり、航空機部品や発電用タービンの羽根、半導体関連素材などの均質性、強度、耐久性を求められる高機能製品に幅広く適用されています。

Quintus社は世界のIP装置市場においてトップメーカーであり、今後伸張が期待される航空宇宙分野を中心に、欧州・米国で圧倒的な存在感があります。今回の買収により、当社は世界市場をターゲットにさらなる事業拡大を目指します。



大型熱間等方圧加圧(HIP)装置

2017年
9月

鉄鋼事業部門

加古川製鉄所で2基目の脱りん炉が稼働開始

競争力強化を目的に加古川製鉄所で約90億円を投資して建設を進めてきた2基目の脱りん炉が稼働を開始しました。

溶けた鉄から硫黄やりんなどの不純物を除去する溶銑処理は、高い清浄度が要求される高品質な鋼材を製造するためには欠かせない工程で、脱りん炉はその工程で使用します。

今回の2基目の脱りん炉稼働による処理率の向上により、溶銑の全量脱りん処理が可能となり、その大半を脱りん炉で処理します。それにより、当社が注力する自動車向けの超ハイテン鋼板、特殊鋼線材など高い品質が要求される高級鋼を、より効率的に製造することが可能となり、年間20億円強のコストダウンになります。



稼働を開始した脱りん炉

2017年
9月

鉄鋼事業部門

北米における自動車用溶融亜鉛めっき超ハイテン鋼板の生産設備増設

当社と米国United States Steel社は、北米における自動車用ハイテン鋼板の需要拡大に対応するため、両社の合併企業であるPRO-TEC Coating社に、新たに連続溶融亜鉛めっき製造設備を1基増設することを決定し、正式契約を締結しました。2019年7月の営業運転開始を目指して、設備建設を進めます。

世界2位の自動車市場であり、また、燃費規制の強化で自動車の車体軽量化ニーズが高まる北米では、今後、ボデー骨格部品向けのめっきハイテン鋼板の需要拡大が想定されています。

当社は、自動車用ハイテン鋼板の生産拠点として日本、米国、中国の3極でのグローバル供給体制を整えており、品質に優れたハイテン鋼板の製造、供給を通じて、今後も燃費向上やCO₂削減に繋がる自動車の軽量化に貢献します。



PRO-TEC Coating社の外観

当社ホームページではこのほかにも、様々なトピックスをご紹介します。<http://www.kobelco.co.jp>

株式に関するご案内

「特別口座」について

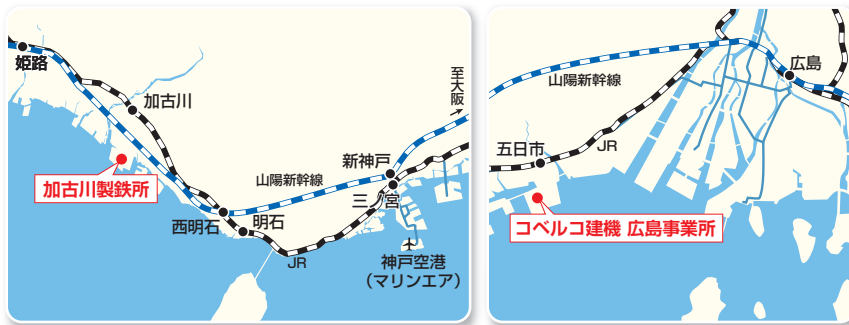
現在株券をお持ちの株主様および以前株券をお持ちで現在株券の所在がわからなくなった株主様の株式は、「特別口座」で管理されている可能性がありますので、三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせください（お問い合わせ先は右ページに記載しております。）。「特別口座」では単元株式の売買はできませんので、証券会社の口座に移管することをお奨めします。

※「特別口座」とは、平成21年1月の株券電子化の際に、証券会社に預けられていない株式を管理するために、当社が開設した口座のことです。

株主様見学会参加者募集のご案内

当社は、株主の皆様当社グループへのご理解を一層深めていただくために、引き続き株主様見学会を実施いたします。
今回ご覧いただくのは、**加古川製鉄所**と**コベルコ建機 広島事業所**です。
つきましては下記の内容にて開催いたしますので、ご案内申し上げます。

開催場所	加古川製鉄所 兵庫県加古川市金沢町1 コベルコ建機 広島事業所 広島県広島市佐伯区五日市港2丁目2-1
対象者	平成29年9月30日現在、当社株式を1単元以上ご所有の株主様
募集人数	加古川製鉄所 360名(各回90名) ※募集人数には同伴者様も含みます。 コベルコ建機 90名(各回45名)
参加費	無料 ※ただし、集合・解散場所までの往復交通費は各自のご負担とさせていただきます。
応募方法	同封の参加申込はがきに必要な事項をご記入のうえ、ご返送ください。 ※対象者の方にのみ、はがきを同封しております。 【締切日：平成29年12月22日(金)到着有効】
お問い合わせ先	株式会社神戸製鋼所 法務部 株主様見学会係 TEL 078-261-4067 受付時間 10:00～17:00(土・日、祝日、その他会社の休業日を除く)



以下の点につき、あらかじめご了承ください。

- 株主様見学会コースは比較的長い距離の徒歩での移動となります。途中何ヶ所か階段がございます。
- **ご応募が多数の場合、抽選とさせていただきます。**
抽選の結果は1月下旬頃にご通知する予定です。
- 同伴者様は1名まで(小学生以上)とさせていただきます。なお、同伴者様がいらっしゃる場合は必ず参加申込はがきに同伴者様に関する必要事項をご記入ください。申込後に、同伴者様の追加はお受けすることができません。
- **以下の場合、ご応募は無効とさせていただきます。**
 - 株主様ご本人のご応募・ご参加でない場合
 - 同伴者様を2名以上ご記入の場合
 - 申込番号を2つ以上選択されている場合、もしくは1つも選択されていない場合
 - 株主様1名につき、2枚以上ご応募された場合
 - 株主様のお名前等、必要事項のご記入がない場合

株主様見学会の概要 ※詳細は、ご招待状にてご連絡させていただきます。

申込番号	開催場所	実施日時(平成30年)	集合時刻	解散予定時刻	集合・解散場所
①	コベルコ建機 広島事業所	2月21日	9:30	12:00頃	JR五日市駅※
②			13:30	16:00頃	
③	加古川製鉄所	2月25日	8:50	13:00頃	JR加古川駅※
④			13:15	17:25頃	
⑤			8:50	13:00頃	
⑥		2月26日	13:15	17:25頃	

これまでの開催実績(過去4回分)

日時	開催場所	募集人数	ご応募総数
平成28年 3月	加古川製鉄所 コベルコ建機 広島事業所	450人	2,297通
平成28年 11月	真岡製造所	240人	1,206通
平成29年 2・3月	神戸総合技術研究所 神戸製鉄所	290人	3,261通
平成29年 10月	高砂製作所	320人	2,027通

取締役および執行役員 (平成29年9月30日現在)

取締役会長兼社長(代表取締役)	川崎博也		
本社	取締役副社長執行役員(代表取締役)	専務執行役員	常務執行役員
	梅原尚人	水口 誠	大久保安
鉄鋼事業部門	取締役専務執行役員	常務執行役員	執行役員
	三宅俊也	河原一明	勝川四志彦
溶接事業部門	取締役副社長執行役員(代表取締役)	常務執行役員	執行役員
	尾上善則※	岡 欣彦	永良 哉
アルミ・銅事業部門	専務執行役員	常務執行役員	執行役員
	宮下幸正	山本浩司	西村 悟
機械事業部門	専務執行役員	常務執行役員	執行役員
	柴田耕一郎	宮崎裕司	中村昭二
エンジニアリング事業部門	取締役専務執行役員	常務執行役員	執行役員
	眞部晶平※	森崎計人	石川裕士
電力事業部門	常務執行役員		
	北川二郎※		
取締役(非常勤)	榎木一秀(コベルコ建機株式会社取締役社長兼任)		
社外取締役	取締役	取締役	
	北畑隆生*	馬場宏之*	
監査等委員	取締役(監査等委員・常勤)	取締役(監査等委員)	取締役(監査等委員)
	藤原寛明	沖本隆史*	千森秀郎*
	取締役(監査等委員・常勤)	取締役(監査等委員)	
	山本敬藏	宮田賀生*	

※印は、各事業部門長であります。*印は、社外取締役であります。

会社の概要 (平成29年9月30日現在)

創立	株主数
明治38年9月	188,806名
発行済株式総数	従業員数
3億6,436万4,210株	11,461名
資本金	
2,509億3,003万3,900円	

株式のお手続に関するお問い合わせ先

株主名簿管理人・特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

当社株式に関する住所・氏名等の変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取・買増請求および相続などのご相談、お手続きは、以下にお問い合わせください。

〈お問い合わせ先〉
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部

☎ **0120-094-777**
(通話料無料(平日9:00～17:00))

※証券会社にお預けの当社株式については、お預けの証券会社にお問い合わせください。

※未受領配当金のお受取りのお手続きについては、三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせください。

環境への取り組みと社会との共生

神戸製鋼グループは、全ての生命体を育む健全な地球環境を次世代に引き継ぐことが私たちの使命であると認識し、環境経営基本方針を策定しています。事業活動のあらゆる面で環境に配慮する環境経営の推進に努めています。

■森林整備活動の実施

2011年秋から、当社グループ各社従業員等のボランティアによる「森林整備活動」を実施しています。これまでの参加者はのべ2,200人を超えました。手入れの行き届いていなかった森の木々の伐採や下草刈りなどの作業を続けており、太陽光が森の中に差し込み始め、少しずつ元気な森を取り戻しつつあります。



森林整備活動の様子



活動後の集合写真

■児童館出前エコ教室の開催

神戸こどもエコチャレンジ21倶楽部*では児童の学習・生活支援の場所となる児童館において、エコ体験プログラム「児童館出前エコ教室」を実施しています。同教室では、児童が環境に対する興味を持ち、環境に配慮した活動を継続して実践していけるように、積極的な環境学習をサポートしています。

当社も当倶楽部の会員として、鉄と電気をテーマとしたサイエンスショーやクイズ大会、エコをテーマにしたかるたなどを通じて、環境の大切さを学ぶプログラムを提供しています。

*次世代を担う子どもたちが、成長に応じて、地球にやさしい環境活動に気づき・考え・行動できるよう、事業者・民間団体・行政が一緒になって神戸の子どもたちへの環境教育を普及し、支援するための組織。



児童館出前エコ教室の様子

ラグビーを通じての活動

当社ラグビー部、神戸製鋼コベルコスティーラーズは、ラグビーを通じて地域・社会と積極的に交流を図り、多くの方々にラグビーの魅力を伝える活動を行っています。2019年に日本で開催されるラグビーワールドカップでは、神戸で試合が行なわれる予定です。その時までには、一人でも多くの方に、ラグビーの魅力を伝えるべく、神戸市教育委員会と連携を図り、地域を盛り上げるイベントや、神戸市の小学校でのタグラグビー（タックルやスクラムなどの接触プレーのない、安全性の高い誰でも楽しむことのできるラグビー）教室の出張授業などに選手が参加しています。今後も当社ラグビー部は、ラグビーを通じて地域・社会と積極的に交流を図り、多くの方々にラグビーの魅力を伝えられるよう努力していきます。



ラグビー体験教室の様子



小学校でのタグラグビー教室の様子

詳しくは [ホームページ](#)をご覧ください。

KOBELCO

検索

<http://www.kobelco.co.jp>